

公大 そよかぜ

2026年2月発行

vol.55

昨年10月に肝胆膵内科部長を拝命いたしました、打田 佐和子と申します。

当科では、肝臓・胆道・膵臓のさまざまな病気に対し、専門の医師が協力して診療にあたっています。

肝臓の病気では、ウイルス性肝炎や自己免疫性肝炎などの治療を数多く行っています。

特にC型肝炎では、インターフェロンを使わない内服薬による治療を多数実施し、全国でもトップクラスの実績があります。肝臓がんに対しては、外科や放射線科と連携し、焼灼療法（ラジオ

波・マイクロ波）、薬物治療、カテーテル治療など、患者さん一人ひとりに合った治療を選択できる体制を整えています。

また、近年増えている脂肪性肝疾患や肝硬変の治療にも注力し、新しい薬の治験にも積極的に参加しています。

胆道や膵臓の病気についても、診断から治療、さらに胆・膵がんの薬物療法まで幅広く対応し、他の診療科や職種と協力して診療の質の向上に取り組んでいます。

当院は肝疾患診療連携拠点病院として、地域の医療機関や行政と協力し、肝臓病の早期発見や

治療体制の整備に努めています。また市民公開講座などを通じて、病気について正しく知っていただくための啓発活動にも力を入れています。

これからも、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりと、地域の先生方との連携を大切にしながら、質の高い医療の提供に努めてまいります。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



肝胆膵内科

新任部長のご挨拶



肝胆膵内科

打田 佐和子



肝臓・胆道・膵臓の役割

▶▶ 肝臓 かんぞう

Liver

栄養の代謝や体に有害な物質の分解を行う臓器です。体の「解毒工場」とも呼ばれ、健康維持に欠かせません。

▶▶ 胆道 たんどう

Biliary tract

肝臓で作られた胆汁を腸へ運ぶ通り道です。脂肪の消化を助ける大切な役割があります。

▶▶ 膵臓 すいぞう

Pancreas

消化を助ける消化液を分泌し、血糖値を調整するホルモンも作る臓器です。消化と代謝の両方に関わっています。



わずか4cmの創(傷)で乳房切除と再建を行う、 先進的で体にやさしい手術

乳腺外科 カシワギ シンイチロウ
柏木 伸一郎

大阪公立大学医学部附属病院では、胸の横にわずか4cmだけの“**目立ちにくい小さな創(傷)**”で、乳房全切除から再建までを一度に行う鏡視下手術を導入しています。

この方法は、全国でもまだ限られた施設でしか行われていない先進的な低侵襲手術で、患者さんの体への負担を大きく減らすことを目指しています。

4cmの小さな創から内視鏡を用いて丁寧に操作するため、術後の痛みが少なく、日常生活への復帰が早いことが特徴です。

また、傷が脇に沿うように配置されるため、正面からはほとんど見えず、治療後の見た目を大切にしたい患者さんにも寄り添える手法です。

「治療の確かさ」と「きれいに治したい」という願いを両立するために、乳腺外科と形成外科が連携し、一人ひとりの状況に応じた最適な治療を提案しています。

この手術が、多くの患者さんにとって安心して選べる“**新しい選択肢**”となるよう、今後も安全性と技術向上に努めてまいります。



完全鏡視下乳頭乳輪温存乳房全切除術
×
鏡視下乳房再建術



大阪公立大学 乳腺外科・形成外科の技術革新

がん治療と生活との両立を支援するチーム医療を目指す！

がん看護専門看護師

ソルタ リエ
鶴田 理恵

がん治療は、手術・薬物・放射線に加え、つらさをやわらげる緩和ケアを組み合わせて行います。

看護は、がんとわかった早い時期から、患者さんとご家族の生活の質(QOL)を守ることを目指します。

医師の説明でわからないことがあれば、相談できる場所があります。治療を続けながら、学校や仕事、家庭生活を大切にできるよう、副作用や痛みをやわらげるケアも行います。

がんに関する情報をまとめたホームページや、若い患者さんを支える

チームづくりにも積極的に取り組んでいます。

最も大切なのは、患者さん自身の思いや希望です。私たちは「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」という話し合いを通じて、その時々の方の皆さんの思いに寄り添い、ご意向を尊重した医療を実践しています。

相談は「がん相談支援センター」で受け付けています。がん看護専門看護師による看護外来、緩和ケアチーム、さまざまな専門家が協力し、思いやりのあるチーム医療を提供します。

「人生会議」とは～
私たちは
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。
あなたの希望に沿った医療を受ける権利があります。

ACP用紙



二次元コードより、スマートフォン等で拡大してご覧いただけます。
(PDFが開きます)

がん治療と生活の両立を支援するチーム医療
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施
「人生会議」の準備と実施

ACPご案内



大阪公立大学医学部附属病院HP
がんの情報室情報室



胃がんの治療は、ここ数年で大きく進歩しています。かつては抗がん剤による化学療法が中心でしたが、いまでは分子標的薬^{※1}や免疫チェックポイント阻害薬^{※2}の登場により、患者さん一人ひとりに合わせた「個別化治療」の時代を迎えています。

当院の消化器内科では、全国的な臨床データと最新のエビデンスに基づき、標準治療を軸にした最適な薬物療法を行っています。特に、HER2、MSI、PD-L1、CLDN18.2などといった、がんの分子的特徴を調べることで、それぞれの患者さんにより効果的な治療法を選択することが可能になっています。

たとえばHER2陽性の患者さんでは、トラスツマブ(分子標的薬)とペムプロリズマブ(免疫チェックポイント阻害薬)を併用した治療が新しい標準となっています。初回治療後に病気が進行した場合でも、抗体薬物複合体(ADC)であるトラスツマブ・デルクステカン(T-DXd)など、新しい薬剤の登場により再治療の成績が向上しています。

また、CLDN18.2陽性例では、新たな分子標的薬であるゾルベツキシマブの使用も行われており、いずれも治療の選択肢は広がっています。

さらに、必要に応じてがん遺伝子パネル検査も活用し、専門医・腫瘍内科医・遺伝カウンセラーなど多職種チームで共有し、安心して治療を受けていただけるよう支援しています。

胃がんの薬物療法は日々進化しています。最新の標準治療を安全かつ丁寧に提供する体制を整えていますので、お気軽に当科までご相談ください。

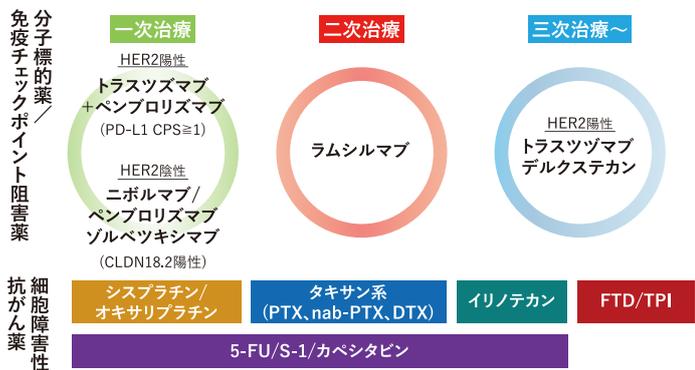
分子標的薬 …

がん細胞の特定の分子だけを狙って作用するよう設計された薬

免疫チェックポイント阻害薬(ICI) …

がん細胞にブレーキをかけられている免疫の働きを解除し、免疫ががんを攻撃できるようにする薬

胃がんに対する主要な抗がん薬



胃癌治療ガイドライン2025年改訂第7版より作成

大阪公立大学医学部附属病院・大阪市立総合医療センター

第4回 合同市民医学講座

副院長 マエダ キヨシ 前田 清

令和7年9月開設の森之宮キャンパスで開催しました

会場内の様子



当院と大阪市立総合医療センターの共催で、令和7年12月7日(日)に「第4回合同市民医学講座」を開催いたしました。今年度は『人生百寿時代〜知って安心、認知症と感染症のいま〜』をテーマとし、専門医が最新の知見を交えながら、認知症の原因を見て取り除く診療の最前線や今後の呼吸器感染症との向き合い方について講演しました。また今回は大阪公立大学森之宮キャンパス開設記念イベントとして、同キャンパスのメインアリーナを会場としたところ、1000名を超える地域の皆さま

にご来場いただくことができました。当院ではさまざまな医学講座を開催しております。今後も地域の皆さまに最新情報を発信してまいりますので、ぜひご参加ください。

GISTの治療

消化器外科

トヨカワ タカヒロ
豊川 貴弘

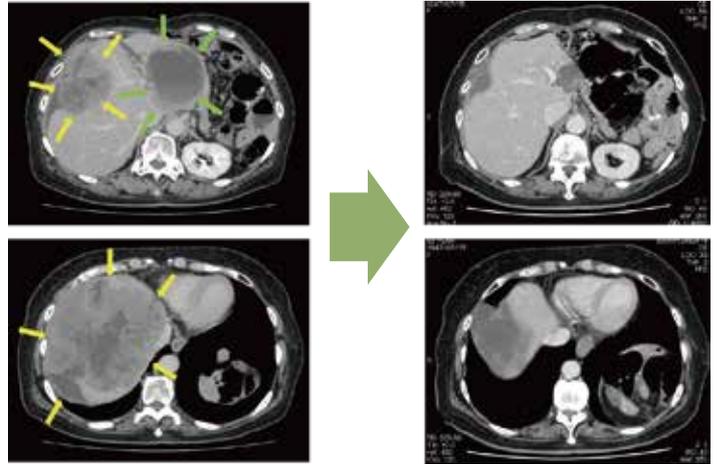
2025年10月1日、^{ジスト}GIST外来を開設しました。

GISTは、Gastrointestinal Stromal Tumorの略称で、日本語では消化管間質腫瘍と呼ばれます。消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸)にできる悪性腫瘍の一種で、GISTと診断される患者さんは毎年人口10万人あたり6人未満と非常にまれなため、希少がんに分類されます。

GISTが根治する可能性のある唯一の治療方法は、手術で完全に切り捨てることのみです。しかし、GISTと診断されたときにはすでに転移してしまっている患者さん、手術後に再発してしまった患者さんは根治に至ることは難しいと考えられています。

まずは薬物療法が中心となりますが、当科では薬物療法だけでなく手術やその他治療を可能な限り組み合わせることで、患者さんに少しでも長生きしていただけるようGISTの診療に取り組んできました。

GISTは希少がんであるがゆえに専門的な知識、豊富な治療経験を有する医師が少ないのが現状です。当科では今までの多くの経験を生かして、多様な選択肢を組み合わせた治療を提案することができます。



このように肝臓に大きな転移をきたしたGISTであっても、薬物療法で腫瘍を縮小させ、完全に切除することにより、10年以上長生きされた患者さんもおられます。

足のキズ外来

形成外科

モリカワ チカシ
森川 周至



糖尿病性足潰瘍(Diabetic Foot Ulcer:DFU)についての講演の様子

2026年1月より、足のキズ外来を開設しました。

足のキズ外来は、難治性足潰瘍を持つ全ての患者さんを対象としております。糖尿病性足潰瘍は世界的に増加傾向にあり、下肢切断に至る状況は症例にもよりますが、数十秒に1本おこなわれているとの報告があるほど深刻な疾患です。糖尿病による下肢切断は、足のキズ(潰瘍)に起因し、その適切な早期治療こそが非常に重要となります。

これまで当院では、窓口となる診療科が明確ではありませんでした。今回「足のキズ外来」として足潰瘍に対する診療を一本化したしました。

足潰瘍にお悩みの患者さん、ぜひ当科「足のキズ外来」にご相談ください。

発行 大阪公立大学医学部附属病院



WEBサイト
<https://www.hosp.omu.ac.jp/>

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電話 (06)6645-2121 (代表)

初診受付時間 午前8時45分～午前10時30分
休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日